

2. 実践研究のねらい

平成 29 年度より義務教育学校となった府中市立府中明郷学園は、平成 30 年度は「生活科」及び「総合的な学習の時間」等の教育課程を独自に改編し、1 年生から 9 年生までの連続した学びとなる「府中明郷アントレプレナーシップ開発カリキュラム」に取り組んだ。本校学校運営協議会は、このカリキュラムが「社会に開かれた教育課程」そのものであると捉え、充実・発展していくために、地域・地元企業との橋渡し役となる他、どのような役割を担うことができるか、研究した。

2 年目となる令和元年度も基本的な研究の方向性は、昨年度のを継承する。本校学校運営協議会が、昨年度の成果と課題を踏まえ、1 年生から 9 年生まで全児童生徒の「社会に開かれた教育課程」の実践を通して、学校と地域・地元企業をつなぐだけでなく、学校と地域が一体となって、「自ら課題を見つけ、学び、行動する児童生徒の育成」に携わるカリキュラムの改善・実践、検証・評価活動等、熟議を踏まえた具体的協働を通して、実践しながら研究課題を追究していく。また、そのことと共に地域課題の解決を図り、学校と地域が Win - Win の持続可能な信頼関係を構築していくことを目指す。PDCA サイクルそれぞれの場面で熟議を行い、評価・検証、改善を図りながら、義務教育 9 年間の児童生徒の成長に留まるのではなく、10 年後、20 年後の姿を目指し、地域総がかりでこれからの地域社会を支える人材の育成、地域産業の後継者の育成につながることを共通目標とし、地域の活性化を図る。